

種子の模型製作中(愛媛県)



おいた野菜などの生ゴミ、落ち葉などを掘り起こし、腐り具合等を確認した後、土壌を採取して顕微鏡で微生物を観察しました。

「炭焼き体験」では、折鶴・ドングリ・マツボックリなどが短時間で炭になることに感動し、また、「木工クラフト」では、次々にユニークな作品が完成していました。



埋めた野菜などを観察中(高知県)

子供たちに作らせた「炭焼き体験は、学校でも出来る」と「意外に簡単に炭焼きが出来る」などの感想をいただいています。

今回、学校行事等と重なった関係もあり、参加された先生は少数でしたが、森林に対する意識は大変高く、熱心に取り組んでいました。今後の実施に当たっては、多くの先生に参加いただけるよう実施時期等を検討したいと考えています。



九月一九日、宿毛市立小筑紫小学校で本年度三回目の五年生一二名を対象に森林教室「空飛ぶ種子」を実施しました。

最初に、植物の種子がどのような方法を使って種子を散布するのか学習しました。

風で回転しながら運ばれる種子もあれば、風に乗って運ばれる種子もありました。甘い果実で覆われた種子は、動物に食べられフンと一緒に散布されます。また、種子のカギやトゲなどにより通過する動物の毛

や皮に付着して散布されるものもあります。更に、水に浮いて散布する種子もあります。さやがはじけたり、ドングリのように転がって散布する植物など、植物がさまざまな方法で種子を散布することを説明しました。



「種子の模型製作中」

その後、「カエデ」「テイカカズラ」「アルソミトラ」(東南アジア産のウリ科の植物)の風や翼を使って飛ぶ種子が、実際にどのように飛ぶかを実物を使って観察しました。

大きな翼を持つ種子「アルソミトラ」がグライダーのように飛ぶ様子に「オー」と驚いていました。

次に、「アルソミトラ」や「マツ」、「ニワウルシ」「ラワン」の種子の模型をスチレンシートや色紙等を使って作りました。「アルソミトラ」の模型を作製中、教室内は「シーン」と静まり、担任の先生も「ビックリ」、こんなに教室が静かになることはないとのこと。児童全員集中して模型作りを行いました。



「ラワンの種子の模型を飛ばす」

最後に、体育館でスチレンシートで作ったラワンの種子模型を輪ゴムで飛ばすと体育館の天井近くまで上がり、くるくると回りながら落ちてくる様子に「おもしろい」と何度も飛ばしていました。

今回の学習を通じて、児童の植物や自然に対する興味への入り口となってくれることを期待します。

ふれあいセンターの人へ
今日はどんなことをするのかたのしみてした。

今日は空飛ぶ種子というのをして、最初にもけいもつくるといっていたから楽しめで最初に25分くらい話をきいてからもけいもつくっていろいろなもけいもつくってうれしかったです。

一番作るのをおもしろかったのはアルリミトラの種子を作るのをおもしろかったです。みんなかかったのはあまり飛ばなかったけど本物はすごくとんていて自せんのかはすごいなあと思いました。

とばすのをおもしろかったのはニラウルシで形もおもしろかったしおとしたときにくるくるまわっておちるのをおもしろかったです。

今日は本当にありがとうございました。
いきました。

小筑紫小 五年 鶴島春士



森林共同施業団地運営会議

八月二七日、当署と徳島水源林整備事務所との森林共同施業団地運営会議が開催されました。徳島水源林整備事務所とは、平成二一年六月に菅生地域の協定締結を手始めとして、三好市



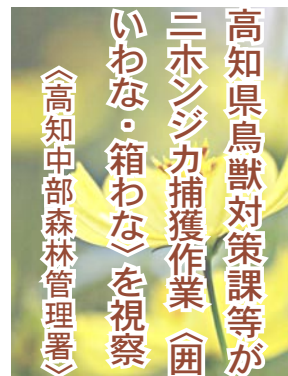
東祖谷檜尾地域・三好市東祖谷菅生（五郎谷）地域の三地域で森林共同施業団地協定を結び、双方一体となって森林整備を進めて来ました。当日は、平成二五年度の整備計画の進捗状況、平成二六年度以降の事業計画、事業実行上の課題、最近の林業情勢等について、意見交換が行われました。

森林整備の進捗等については、協定に基づき順調に進んでいることが確認できました。会議で関心が高かったのは、ニホンジカ被害対策の問題であり、徳島水源林整備事務所としては、シカ除けネット、メッシュチューブ等を使用した取り組みを行っているが、

ネット補修や、改植を繰り返しているとのことでした。お互いニホンジカ被害への対策に苦慮していることを認識しました。

国有林側からは、最近の林業情勢や、国有林野事業の一般会計移行について説明を行い、森林管理署の新たな体制や新設された森林技術指導官、地域林政調整官の職務内容について理解を深めていただきました。今後は、本年三月に徳島水源林整備事務所と協定を結んだ「六丁地域の路網整備等に関する協定書」をさらに発展させ、現在、徳島県林業公社・徳島県農林水産部と協定を結んでいる「六丁地域森林整備の推進に関する協定書」と一本化を図

り、大規模団地化する方向での検討を行うことを確認するなど収穫の多い会議となりました。



八月五日、高知県鳥獣対策課、香美市役所産業振興課、JA土佐香美、香美猟友会、三嶺の森をまもるみんなの会、嶺北署、安芸署、局技術普及課の総勢一六名が、当署の森林技術指導官の案内で香美市物部町安野山国有林二八林班外に八箇所設置している囲いわな・箱わなを視察しました。

この視察は、当署が、平成二四年度から設置しているシカ防護ネットを利用した大型囲いわなの捕獲実績が高いことから、高知県鳥獣対策課等から、ぜひ視察したいとの要請を受け実施したものです。

当日、午前一〇時に東笹林道のゲート近くの広場に集合し、森林技術指導官が管内概要により当署のあらましと平成二三年度から実施しているニホンジカ捕獲作業（囲いわな・箱わな）（請負事業者、香美猟友会）について、設置箇所、囲いわなの大きさ、場所の選定方法、平成二四年度の捕獲実績（四一頭）について説明しました。

この視察は、当署が、平成二四年度から設置しているシカ防護ネットを利用した大型囲いわなの捕獲実績が高いことから、高知県鳥獣対策課等から、ぜひ視察したいとの要請を受け実施したものです。

当日、午前一〇時に東笹林道のゲート近くの広場に集合し、森林技術指導官が管内概要により当署のあらましと平成二三年度から実施しているニホンジカ捕獲作業（囲いわな・箱わな）（請負事業者、香美猟友会）について、設置箇所、囲いわなの大きさ、場所の選定方法、平成二四年度の捕獲実績（四一頭）について説明しました。

また、嶺北署、安芸署から参加した森林技術指導官は今後の捕獲作業の参考にしたいとの意気込みで、笹岡さんに熱心に質問し、囲いわなの入り口開閉の仕掛けなどをカメラに記録して

わなを設置している三嶺地区は、視察参加機関等が連携してニホンジカ被害対策に当たっていますが、被害が沈静化しない状況にあることから、今後も機会を捉え、関係機関等との連携に努め、効果的な被害対策を進めたいと考えています。



視察の様子